

有明工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	卒業設計
科目基礎情報					
科目番号	5A012	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	創造工学科(建築コース)	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	課題書 (前期, 後期別), 適宜プリント配付 / 日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』丸善, 川北他『初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ』彰国社, 建築知識編『ラクラク建築模型マニュアル』エクスナレッジ				
担当教員	加藤 浩司, 正木 哲, 松岡 高弘, 森田 健太郎				
到達目標					
1. 現代社会の動きを的確に捉え, そこに課題を見出し, 自らが見出した課題に対し, 創造的・独創的で, かつ主張性のある解 (提案) を導き出せること。 2. 定められた期限内に, 自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代社会の動きを的確に捉え, そこに明確な課題を見出し, 自らが見出した課題に対し, 創造的・独創的で, かつ主張性のある解を導き出せること。	現代社会の動きを捉え, そこに課題を見出し, 自らが見出した課題に対し, 創造的・独創的で, かつ主張性のある解を導き出せること。	課題現代社会の動きを捉え, そこに課題を見出し, 自らが見出した課題に対し, 創造的・独創的で, かつ主張性のある解を導き出せない。		
評価項目2	定められた期限内に, 自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて成熟度が高い作品としてまとめられること。	定められた期限内に, 自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。	定められた期限内に, 自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめることができない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B-3 学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2					
教育方法等					
概要	<p>これまで, 建築の専門分野ごとに理論を学習してきたが, 個々の理論の認識だけにとどまり「モノづくり」などの技術で重要な総合化された認識になっていない部分がある。もちろん, 建築設計演習はその総合化のための教科であるが, 課題や条件が与えられた枠の中での総合化である。しかし, 創造的な「モノづくり」の本質は, この課題を自らが見つけ出し, それに対する独自の解を提示することにある。もちろん, 社会で活躍をしている建築家も同様であり, それぞれ時代観や問題意識を持ち, 日々新しい空間づくりに取り組んでいる。</p> <p>そこで, 本科目では, 建築の専門分野毎の個々の理論を総合化するだけでなく, 理論に裏付けられた実践的技術を“学生自らの手”で獲得することをねらいとする。具体的な授業目標は, 取り組む課題を学生自身で見出すこと, 今までにない, あるいは見落とされている新しい空間や施設の提案ができることである。</p> <p>なお, 本科目では, SDGsのうち「11.住み続けられるまちづくり」に関する内容を学ぶ。</p>				
授業の進め方・方法	<p>本教科の性格から, 授業時間外 (例えば, 放課後や休日, あるいは夏休みなど) の時間を, 資料の収集や調査などに率先してあてる必要がある。</p> <p>授業では, 担当教員とのミーティングを重ねつつ, 課題の発見から, その課題に対する解の提示に至る一連の過程に, 学生主体で取り組む。</p> <p>この間, 中間発表会を実施する。中間発表では, 個々の進行状況を確認するとともに, 課題の妥当性やコンセプトの適切性を担当教員全員で指導する (A1用紙1~2枚程度以内にまとめて発表)。</p> <p>また, 卒業設計展の見学もできる限り実施する (場合によっては実施できないこともある)。他校学生の作品などを見ることで卒業設計に対する認識を深めて欲しいからである。</p> <p><卒業設計に要求されるもの> 卒業設計は要求される内容の点で, あるいはそれに費やす時間の点でも課題設計とは大きく異なる。以下, 要求される主要な項目をあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題性 <p>違いの一つは, 課題及び設計条件等がいっさい与えられない点である。建築とはそもそも社会性が非常に強い分野である。そこで, 諸君は現代社会において何が課題であるのか, または課題となりうるのかを概念的に構築することから始めねばならない。作品の出来不出来は, 表現力とともにこの課題の設定に大きく左右される。したがって, 種々の情報を収集し課題性を高めること。独りよがりの自己満足に終わってははいけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張性 <p>明確な主張を持つことでありそれを表現することが必要である。つまり, 課題に対する自分なりの解を強く訴えること。学生諸君は, これを往々にして文章だけで表現しがちであるが, 卒業設計では「所定の枚数を使って言いたいことを視覚的に表現すること」が求められる。例えば, 概念図を描くなどの工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性, 創造性 <p>課題の設定やその解決及び表現において独創性, 創造性を持つことである。誰かのコピーでは困る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密度とプレゼンテーション <p>表現手段は特定しないが, 自分の表現したいものに適した手段 (道具) を使うこと。そして, 君たち自身が「高専5年間の中で一番充実していた」「思いっきりやれて悔いはない」と言える取り組みにして欲しい。我々のみならず見る者すべてに感動を与えて欲しい。</p> <p><作品の提出></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現内容は, 自由であり図面等の特定もない。 ・原則としてA1版の用紙5枚以上を使って表現すること。 ・各用紙にタイトル, 氏名, 用紙番号を入れる。 				
注意点	<p>本科目では, 各回授業の前に各自エスキスを進めてくることを前提とする。作図も同様である。これらの他, 授業時間外に, 敷地調査や事例見学, 資料収集・分析なども積極的に行うこと。</p> <p>設計は, 総合的な行為である。それを忘れず, これまで学んだ知識を総合し設計を行ってほしい。</p> <p>特に, 建築計画や都市計画, 空間デザインや建築デザインとの結びつきは強い。構造物・環境面などからの配慮も欠かせない。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		

前期	1stQ	1週	オリエンテーション	本科目の目的と構成，進め方，ならびに評価方法等を知る。
		2週	作品研究	卒業設計での他者の作品について研究し，課題の種類，課題設定の方法，ならびに解の導き出し方を理解できること。
		3週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		4週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		5週	中間発表	自分が設定する課題の妥当性等を理解し，改善点を見いだせること。
		6週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		7週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		8週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
	2ndQ	9週	中間発表	自分が設定する課題の妥当性，および課題解決方法の妥当性等を理解し，改善点を見いだせること。
		10週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		11週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		12週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		13週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		14週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		15週	前期末発表会	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		16週		
後期	3rdQ	1週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		2週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		3週	中間発表	自分が設定する課題の妥当性，および課題解決方法の妥当性等を理解し，改善点を見いだせること。
		4週	ミーティング	現代社会の動きを的確に捉え，そこに明確な課題を見出し，自らが見出した課題に対し，創造的・独創的で，かつ主張性のある解を導き出せること。
		5週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		6週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		7週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		8週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
	4thQ	9週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		10週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		11週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		12週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		13週	作品づくり	定められた期限内に，自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。

		14週	作品づくり	定められた期限内に、自分の提案を説明・表現するのに相応しい手段を用いて作品としてまとめられること。
		15週	最終発表会と総括	制限時間内に、各自の提案をわかりやすく説明できること。質疑応答や講評等を通じ、各自の達成度を確認できること。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	設計・製図	与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。	4	前15,後15
				講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	4	前15,後15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	20	0	20
専門的能力	0	0	0	0	60	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	20	0	20